

# 混声合唱団ブルーメンクランツ 第4回定期演奏会



## 混声合唱団ブルーメンクランツとは

東京都内を拠点とする団員約30名強（休団者除く）の社会人合唱団。東京芸術大学出身の指導陣も含め、全員20代～30代のメンバーにて、「21世紀の歌をうたおう」をキャッチフレーズに活動中。活動方針に「同時代性」を掲げ、常任指揮者・音楽監督の小林昭裕を軸として「若手作曲家への委嘱」「若手演奏家とのコラボレーション」など特色ある活動に取り組んでいる。これまでに3回の定期演奏会を開催。毎回、同世代の作曲家への委嘱作品を初演するとともに、A.プリス「パストラル」、デザンクロ「レクイエム」前など、管弦楽付き合唱曲の「知られざる名曲」をメイン曲に据えている。今回の第3回定期演奏会では、ジャズ、サンバなど多様な音楽スタイルを取り入れたシェーンヘル「マニフィカト」を本邦初演した。

2003年3月に小林昭裕と団長・佐藤雅代を発起人に慶應義塾大学混声合唱団楽友会のOB/OGを中心に創団。現在はホームページ経由の見学申し込みから多数の団員を獲得し、多彩な経歴・職業を持つメンバーが集まっている。2006年、第61回東京合唱コンクール一般部門Aグループ銅賞受賞。

## 第4回定期演奏会 ～日本語と合唱音楽～ コンセプトとプログラム紹介

今年のブルーメンクランツ（BK）の演奏会は、日本語100%でお届けします。「日本語の音響的美しさ」、「伝統芸能と合唱の融合」、「いわゆる『日本語合唱曲』の表現」、「邦楽器と西洋楽器の対峙」という4つの切り口で構成された今年のプログラムは、さまざまなかたちで私どもに日本人のアイデンティティを問いかけてます。楽しい歌、難解な歌、素朴な歌、美しい歌など色々ありますが、いずれの曲も、歌うにつれ日本の風土と文化の持つ独特の味わい深さを教え、日本人であることへの素直な感動と自負をもたらせてくれます。もちろん、その背景には、それぞれの作曲家による「西洋音楽の手法で日本のことば、文化、風土を語る」ことへの苦心と工夫があることは言うまでもありません。我どもの感じた喜びや驚きを、また各作品のすばらしさを、演奏を通じて皆様と共有できるよう精進いたします。今回の会場は、私どもの初心の地であるトッパンホール。多くの皆様のお越しを、心よりお待ちしております。（団長 佐藤雅代）

### <第1ステージ> 北爪道夫 混声合唱曲「廻る歌」

本作品は、2001年に「新しいうたを創る会」によって委嘱初演された歌曲集「遊び歌集」の最終曲を、2003年日本合唱協会のために、作曲家自身が混声合唱に編曲し献呈したものです。歌詞は回文（上から読んで、下から読んで同じ文）で構成されており、「日本語の音響的美しさ」を追求しています。本ステージは、団員選抜による「ブルーメンクランツ・ゾリステン」の小アンサンブルにてお届けします。

### <第2ステージ> 柴田南雄 「遠野遠音」～柳田国男「遠野物語」および東北民謡による

東北の民俗と伝統をテーマにした、日本人のDNAを呼び覚ます無伴奏シアターピース。シアターピースとは、合唱に加え朗読や台詞、移動や振り付けなどを伴って、通常の演奏スタイルでは得られない演奏効果（音楽的空間の形成）を追求する、日本独特の合唱音楽の形態です。本作品は、20世紀の日本の偉大な作曲家・音楽学者であった柴田南雄によって、1991年に「合唱委嘱・初演団体「創る会」」のために作曲されました。ともすれば感傷的になりがちな「日本の伝統の本質」という素材を現代音楽の手法で扱ったこの作品は、時に難解ながらも、聴衆を惹きつけてやまない魅力を持っています。

### <第3ステージ> 新実徳英 混声合唱とピアノのための「三つの優しき歌」（詩：立原道造）

昭和初期の詩人立原道造の美しい詩に、新実徳英がきらめくような美しい旋律をつけた名作。当団ではむしろ珍しい、オーソドックスなピアノ付き日本語合唱曲をお届けします。多くの合唱団が取り上げ、人気を博している作品こそ、お客様の耳をごまかすことはできません。自己満足に陥らず、お客様に楽しんでいただける演奏を目指します。

### <第4ステージ> 山田香 『額田女王』中大兄皇子の章 熟田津にて

今年の目玉は、BKでも初の試みである「メインステージの委嘱」。しかも、日本語シリーズの締めくくりということで、歌詞が日本語であることはもちろん、弦楽アンサンブルと、邦楽の楽器である「箏」が演奏に加わります。これは日本の合唱史上大変珍しい作品になることは間違いありません。題材は、「額田女王」。7世紀、飛鳥時代に大化の改新に始まる大きな歴史の流れに翻弄された一人の女性の運命を、ドラマティックに歌います。作曲は、当団の第1回定期演奏会で「かたつむりでんきちによる4つの詩」の作曲を委嘱した山田香。「でんきち」の可愛らしい作風とはまた違った魅力に溢れた注目作に、乞うご期待！！

## 指揮者・出演者紹介

### 小林 昭裕（常任指揮者・音楽監督）



三重県伊勢市生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。東京芸術大学声楽科卒業、同大学院オペラ科修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞・奨励賞受賞。声楽を多田羅道夫氏、野本立人氏に師事。バリトン歌手として、「コシ ファン トゥッチ」グリム役、ドン アルフォンソ役、「ドンジョヴァンニ」レポレロ役（東幹久氏と共演）、「フィガロの結婚」伯爵役、「こもり」アイゼンシュタイン役、「ラ ボエーム」ショナール役などのオペラに出演。コンサートソリストとしては、「第九」、「ドイツレクイエム」、「エリア」などで、東京シティフィル、群響といったプロオーケストラと共演。合唱指揮者としても、オペラの合唱指揮、新作初演、オーケストラ付き合唱作品の指揮など積極的に活動している。二期会会員。

### 久住 綾子（ピアノ）



東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程（ピアノ）修了。1994年、第48回全日本学生音楽コンクール東京大会中学の部奨励賞受賞。1996年、第50回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第二位。第7回埼玉ピアノコンクールE部門金賞。1998年、第9回埼玉ピアノコンクールF部門金賞、埼玉県知事賞。第22回PTNAピアノ・コンペティション ソロ特設部門銀賞。2001年、学内モーニングコンサートにて芸大オーケストラと共演、ショパンのピアノ協奏曲を演奏する。大学院在籍中、東京芸術大学大学院音楽科のティーンテングアシスタントを務める。大学院終了時に東京工業大学入学式のコンチェルトソリストに選出される。ピアノを荻野千里、平井丈二、角野裕、伊藤恵の各氏に師事。現在、日本音楽家協会主宰の東京音楽教育センターで

NPO法人 日本の音芸術を創る会制作のコンサートでピアニストとして活躍中。聖徳学園音楽文化学科非常勤助手。混声合唱団ブルーメンクランツでは、ピアニストとしての役割のみならず、コーチとして音楽作りにおける重要な役割を果たしている。

<混声合唱団ブルーメンクランツ 団員募集中！>

[公式HP] <http://blumenkranz.hp.infoseek.co.jp/>

混声合唱団ブルーメンクランツでは、団員を随時募集しております。20代～30代のメンバーが中心で、活動日が日曜日の合唱団をお探しの方、まずは是非一度、見学にお越し下さい！詳細は、上記の公式HPをご覧ください。E-Mail [pbjk-owner@yahoo.co.jp](mailto:pbjk-owner@yahoo.co.jp) / TEL 090-1541-1549（いずれも団長・佐藤）までお問合せください。